

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
① 調査・研究	
<p>2018年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の4年目であり、研究計画にしたがって、これまでに収集した世界各地のテーマパークにおける「イスラーム風アトラクション」「宗教ナショナリズム的アトラクション」「愛国アトラクション」等に関するデータの整理と分析を継続するとともに、インターネットや文献資料を通じて最新の関連情報を収集した。他方で、スペイン王国、トルコ共和国、ドイツ連邦共和国、チェコ共和国、ハンガリー、オーストリア共和国、インドネシア共和国、マレーシア、シンガポール共和国において、宗教・民族・国家・歴史・自文化ならびに異文化がどのように表象されているかに関する現地調査・資料収集をおこなった。これらの国々におけるテーマパーク・遊園地に関して、全体的なコンセプトや個々のアトラクションに、ナショナリズム的要素や宗教的色彩が顕著に見られたのはトルコとインドネシアのみであった。しかし、どの国のどの遊園施設においても、特定の国や地域の特徴や文化をステレオタイプ化して表象する際には、宗教や民族が前景化することも珍しくないことが分かった。とはいえ、本研究課題の中心をなすインドのテーマパークでは、排他的宗教民族ナショナリズムの思想が複数の事例において暴力的に表明されている。今回の通文化比較を通じて、現代インドのテーマパークの特殊性だけでなく、娯楽・観光のなかで政治性が表面化する契機や場面に注目することの重要性を再認識するに至った。</p> <p>現代インドにおける地域社会とテーマパークの関係をより深く理解し考察するにあたり、世界各地の事例だけでなく、国内の身近な事例についても見聞を深めることは、研究成果について「文化の翻訳」をする際に大きな意味をもつ。そこで、群馬県内の自治体が設置した遊園地を対象とし、高崎市の観音山公園、前橋市の中央児童遊園・るなばあく、伊勢崎市の華蔵寺公園遊園地、桐生市の桐生が岡遊園地、渋川市の渋川スカイランドパークを対象とした現地調査・資料収集をおこなった。この調査研究の成果は、高崎経済大学地域科学研究所発行のブックレットを通じて一般に公開した（詳細は下記を参照）。</p> <p>次に、研究分担者となっている科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（A））「<ジェンダーに基づく暴力>の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）は、2018年度が研究期間の3年目であり、プロジェクトの趣旨に基づき、「ジェンダーに基づく暴力」に関する現地調査・資料収集を、ノルウェーの首都オスロのパキスタン系移民社会で実施した。この成果は、2019年度に研究発表・学会発表、論文執筆を通して一般に公開する予定である。</p> <p>同時進行中の3つめの研究テーマ「聖遺物信仰の21世紀的展開とバレーリー派の思想・運動」については、科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（B））「地中海周辺域における聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学教授・赤堀雅幸）主催の研究会と、スペイン王国マドリッド州の州都マドリッドと、ガリシア州の州都サンティアゴ・デ・コンポステーラでのキリスト教の聖遺物信仰および祭礼の調査を通して、問題意識と対象範囲を広げ知識と情報の収集に取り組んだ。さらに、アンダルシア州の州都セビージャに出張し、7月16日～20日にセビージャ大学で開催されたWOCMES（World Congress for Middle Eastern Studies Seville）</p>	

に7月16日から19日まで参加し、18日のパネルで研究発表をおこなった。

②論文・著書・エッセイ

◆KOMAKI Sachiyo 2019 Islam and the Self-Representation of Punjabi Muslims in Pakistan: A Case Study of the Exhibition of Holy Relics in the Badshahi Masjid, Lahore. TONAGA Yasushi and FUJII Chiaki (eds.) *Islamic & Sufi Studies in Academia: Rethinking Methodologies*. Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series. pp.243-262.

◆小牧幸代 2019『高崎市の遊園地：カップピアからケルナー広場へ』高崎経済大学地域科学研究所、32頁。

③研究発表

◆KOMAKI Sachiyo 2018.7.18. The Cult of Islamic Relics and the Religious Goods in Contemporary India. PA-187. Religious Practices Using Commodities in Consumer Societies. WOCMES (World Congress for Middle Eastern Studies Seville)

◆駒澤大学駒沢キャンパス・種月館において、10月21日に開催された「宗教とツーリズム」研究会(第21回)と科研費基盤研究(B)「ツーリズムにおける<スピリチュアル・マーケット>の展開の比較研究」(研究代表者:筑波大学・山中弘)との合同公開研究会において、「観光資源としての聖遺物:インド・イスラームの事例を中心に」というタイトルで研究発表をおこなった。

2 その他の事項

2018年度は、本学国内研究派遣制度で上智大学アジア文化研究所客員教授として研究に専念した。

3 次年度以降の計画・抱負

2019年度は、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化:テーマパークとモダンアートを中心に」(研究代表者:小牧幸代)の研究期間の5年目となる。また、科学研究費助成事業(科学研究費補助金(基盤研究(A))「<ジェンダーに基づく暴力>の文化人類学的研究」(研究代表者:京都大学人文科学研究所教授・田中雅一)は最終年度、さらに科学研究費助成事業(科学研究費補助金(基盤研究(A))「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」(研究代表者:上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸)の研究期間の初年度でもある。これら3つの研究テーマについて、これまでに収集蓄積されたデータの整理・分析をおこない、研究発表・学会発表(日本南アジア学会)と論文執筆に取り組む。

さらに、高崎市・群馬県の遊園地研究を継続し、ブックレットで公開した内容の充実化を目指すと同時に、独自の観点からのアトラクション研究につなげていきたい。